

茨木高校野球部

OB会報

発行

大阪府立茨木高校

野球部OB会

一九五〇年最後の夏

加藤 文士
(高3回卒業)

昭和二十五年七月快晴、抜ける様な青空だった、いよいよ藤井寺で準決勝の第一試合がプレイボール対戦校は西野田工業中盤迄一対一のタイスコアしかしラッキーセブンにスクイズで一点を取り八回を終り2対1とアヘッドした。いよいよ九回表今迄のゲームの流れから、吉川純投手も好調だし我チームの勝利を確信しライトの守備位置についた。そしてこの回をしのげば明日は吉川投手に変わり自分が決勝戦のマウンドに立てる。甲子園に王手が掛けられると。

だがこの想いはわずか10分間位の間に打ち砕かれた。内野のエラーとフィールダースのミスが重なりアット云う間に6点をもぎ取られた。9回裏必死の攻撃も一点に

留まり7対3で最後の夏が終った。

第三十二回大会は参加校八十九我チームは米沢監督のもと下馬評は良くなかったが全員野球のバランスが取れたチームだった。

初戦は私学の伝統校日新商業を8対1のスコールドゲームで一蹴し泉尾、主野、布施、工、港と連破して来た。特に四回戦の布施工は春の大会ベスト四でダークホース的存在だったが8対1スコールドゲーム寸前迄追い込んでの圧倒的な勝利だった。さて私達は敗戦の色濃いつた昭和二十二年に旧制茨木中学に入学同年八月に終戦混乱の時代だった。六、三、三の学制改革により新制高校卒業迄六年間の茨木時代を過ぎた。(七年間と云う、うら

やましい者も居たが)食べる事にこと欠く時代空腹を抱えながらの野球部時代だった。当然野球道具もそうだった。破れたボールを授業中にこっそり麻糸で縫い合せてたり、折れたバットも釘で打ちつけトス用に使ったり、グラブも配給制だった。だが米沢先輩の指導のもと練習は厳しかった。暗くなつてからのベースランニング特に最後の

一人になるベース一周のランニング競走が、しかしこの時代好投手吉川(恒)を擁した茨木は昭和二十二年の決勝戦進出(浪商に4対0で惜敗)その後も近畿大会出場等甲子園にあと一步の時代が続いた。カップが陸にあがったと云われたものだ。

たかが野球されど野球と云うが、これほど我々を引きつけたのは何だったのかと自問自答することがある。今でも高校野球の入場行進や表彰式を見るたびに熱いものがこみ上げて来る。未だ高校野球の血が流れているのだろう。

大阪戦後野球懇親会の集い



終戦直後の昭和二十一年夏第2次大戦で中断されていた第二十八回全国中学校野球が再会された。茨木中も善戦健闘大会で初めて三回戦迄進出した。大阪大会は浪商が優勝更に全国大会も制した。この時代の球児が中心になり四十四年ぶりに平成二十一年十一月九日あの藤井寺球場に約六十名が集まり軟式だったのが白青の二組に別れゲームを楽しんだ。マスコミからの取材も多くテレビ放映もされた。茨木OBから、米沢、神戸、田畑、藤本、中西、尾高、小司、私が参加、それぞれ昼も夜も健闘した。私も一イニングだけだったのが念願のプレートに登板する事が出来た。

ちなみに茨木野球部は第八回大会大正十一年に参加、当時の大阪大会は参加校わずか十七校だった。平成三年は戦後復活全国大会決勝記念として、当時決勝を斗った浪商対京都二中戦の再現をメインに大阪京都のOB戦が七月十一日西宮スタジアムで開かれた。浪商、平古場京都一中(現鳥羽高校)田丸両投手の対決が再現。新調のなつかしいユニホームに身を包んだOB諸氏の勇姿をとくと御覧下さい。前列左から藤本(高四)神戸(高三)小生(同)米沢

(中四十九)後列田畑(高三)中西、吉川(弥)(高四)の各氏です。今年は六月二十三日京都西京極球場に於いて再度大阪京都のOB戦が予定されています。最後にいよいよ夏の大阪府予選が近づきました。現役諸君の健闘を心から祈るものです。ぜひすばらしい夏の思い出を作ってください。

野球部長から

太田捷昭



緑したる好季節となりましたが、皆様方には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。現役の生徒は、新入生の加入もあつて、総勢四二名と充実した部員を揃え、毎日、練習に励んでおります。球部にとって大変な事が起こっております。それは茨高百周年を迎え、校舎の改築工事が始まることになり、遺跡発掘調査も含め、今年六月から平成七年度まで、グラウンドの使用ができなくなるという事です。幸い今年の卒業生の御父兄の坂根さんがグラウンド確保

に奔走して下さい、松下茨木工場ランド(土、旦、東芝ランド)平日五時迄、関西電力水無瀬ランド、月火水六時迄と、一応グラウンドの確保はできたものの、フリーバッティングができないう(水無瀬Gは時間的に)状況であります。また、茨木市営G(有料)は、申込んでも毎日確保できるという保証がありません。そこで選手の出撃練習の保証をしてやりたいの思ひから、鳥かご(バツィングゲージ)を作つてやりたいと考えました。これも金のかゝることで、三社に見積りを出してもらいましたが百三十から百五十万円かゝるといいます。これを実現するには、OB会の方々の絶大なる資金援助がなければ不可能なことであります。幸い昨年度から発足しました保護者の会が、臨時総会を開き、特別会費を徴収する協議をして下さることにりましたが、人数も少なく、ジブシー練習をする生徒にとって、例年になく出費が重なることを考えると、あまり期待は持てません。日頃からOB会のご厚意に甘えている上に、この様な我が儘を云うのは愧びないのですが、何卒、事情ご賢察のうえご高配賜りますようお願い申し上げます。